



## PEN食器への一部変更

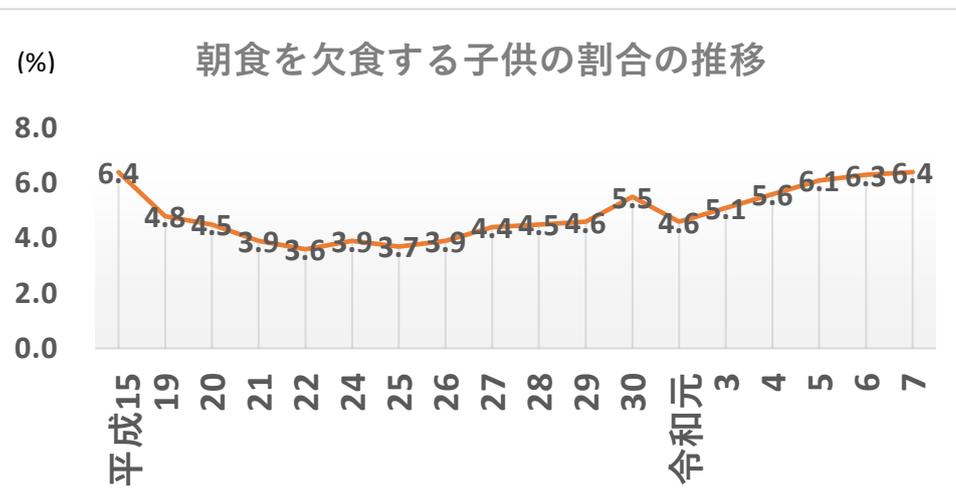
2学期が始まりました。夏休みの生活はいかがだったでしたか。楽しい食事の思い出を聞かせてくれることを心待ちにしております。さて、第二中学校では昨年度に引き続き、給食で使う食器の一部が2学期より変更となります。主にスープやサラダを入れていた食器（材質は強化磁器）が新しい物（材質はPEN樹脂 [ポリエチレンテレフタレート]）となります。これまでのものよりも割れなくはなりますが、食器の購入費用は大切な税金が充てられていることから、今までどおり大切に扱っていただくよう、ご家庭でもお声がけよろしくお願いたします。



## 夏季期間の学び「小中学生の健康関連指標に黄色信号!？」

第4次食育推進基本計画の現状値に対する要因分析調査報告が公開されました。第4次食育推進基本計画（令和3年度～7年度）では、朝食を欠食する子供の割合を「0%」にすることが目標とされていました。こちらのデータには、「全国学力・学習状況調査」の小学6年生の回答結果が使われております。それでは過去の結果から振り返ってみましょう。

第3次の策定時（平成27年度）は4.4%でした。そこから第4次の最終年である令和7年度まで少しずつ増えていることが読み取れます。見方によっては、ここ最近になって悪化してきたとも取れます。



このデータと関連しているのか気になってしまうのが、学校保健統計調査です。こちらでは最新の令和6年度結果にて、平成18年度以降のデータでは、肥満傾向児は11歳が男女ともに最高値、痩身（やせ）傾向児は14歳が男女ともに最高値となっています。

そして、本校においても4月の身体測定結果から計算した、肥満傾向児・痩身傾向児の割合は両方とも1.5%程度上昇しました。これは過去3年間の推移の中ではとても大きな変化です。さらに、睡眠時間・スクリーンタイム・食事時間などと最も関連性が強いことが分かっている体力テスト項目である「20mシャトルラン」の結果も昨年度の埼玉県平均値と比べて芳しくありませんでした。



話を子供の朝食欠食に戻します。上記の報告書では、朝食欠食に大きく影響を与えていることとして、「子供の朝食時間帯での食欲」と「保護者の朝食摂食習慣」が挙げられていました。家族全員で一緒に朝食を食べることは、当たり前習慣ではなく、「意図的に試みる」時代が近づいているのかもしれない。

